

孤独な子育てから出会いの多い子育てへ

実行委員 K 川野 都
T 高山静子
R 笠 弘子

1. 環境の変化と孤独な子育て

- K「今回のトークは、子育て環境の変化が母親たちを追い込んでいるんじゃないかという疑問から始まったわけだけど、思った以上に反響が大きかったね。」
- R「ほかの人も同じように、まさに拒否されているような寂しさを味わっていることが、わかってほっとしたわ。」
- K「今、児童虐待の増加も社会問題になってるね。」
- T「児童虐待にはさまざまな要因があるけど、原因の一つとして孤独な子育てがあげられている。親たちは、好きこのんで孤独な子育てをしているわけじゃないけれども「もっと積極的に外に出ればいいのに」みたいに、母親自身のせいにされていることも多いと思う。」
- K「でも急激に子どもと親を取り巻く環境が変わったから、世代間ギャップも激しくて、私たちの状況はなかなか理解されにくいよね。ここで環境の変化が、なぜ母親の育児負担を増やしているのかを整理してみましよう。」

2. 子育て環境の変化

(1) 身近な遊び場の減少

- T「急速な都市化、道路の整備によって車が家の前まで走るようになってきている。東京の友人に「福岡は自然が残っていていいね。」なんて言われるけれどとんでもない。「福岡は路地がないし、児童館は市内に1つしかないよ。」と言うと「それじゃあ東京の方がまだましかもしれない。」と。(笑)」
- R「「道を歩いていて、いつも子どもに「危ない!」「だめ!」とい続ける自分が、オニババアのように思える。」という発言、共感を呼んでましたね。」
- T「命に関わることだから、つい大声になってしまうのよね。「はしっちゃだめー!!」、「あぶなーい!!」って。(笑)」
- K「その上、歩いていても、さわってはいけない物だらけ。どうしてこんなに子どもに口うるさく言わないといけないんだろうと思う。本当に気が抜けないよね。」
- T「昔は「放っておいても子は育つ」。今は「放っておいては車にひかれる」。お母さんたちは、子どもにつきっきりで、ほっとする間もなく子育てをしている。」
- R「私たちが子どもの頃は親は家で家事や仕事をしていても、私たちは近所の子と勝手に外で遊んでいられたわね。でも今は家のまわりに子どもたちが遊べる路地や空き地などもほとんどないし、家から出るとすぐ道路。」
- K「まちの中では子どもをのびのびと遊ばせる唯一の場所は公園しかない。だから車にのせてでも連れていく。そうでないときには家でビデオ(笑)。」
- T「子どもは家のまわりで自由に遊ぶというような自発的に遊びを展開することが必要。生きる

意欲にあふれた幼児期に、家の中でテレビを見て過ごすことを続けていると、子どもは遊びの不足によって身体的・精神的・社会的健康が損なわれてしまう。結局育てにくい子どもとして、母親へ負担となって戻ってくる。自分で好きなときに遊べないという状況は、親にとっても子どもにとってもよくないことだと思う。」

(2) 親も子どもも友だちと出会えないまち

R「でもせっかく連れていった公園に子どもがいなかったりするのよね。」

K「そう、友だち探しの公園ジブシー。」

R「「近所に友だちがいないので、子どもを友だちと遊ばせるために保育園に入園させる」という話もでていた。」

T「子どもの成長に友だちは不可欠。それから親にも仲間は絶対必要。ある調査によると「子どもをたたいてしまう」「イライラする」原因の第1位が「育児の不安、心細い」と出ている。その調査によると「ほとんどは、子どもの正常な発達を母親がよく知らないために生じている」。「うちの子反抗がひどくて」とちょっと聞けば「うちもよ、大変よね。」ですむことが、聞ける人がいないと深刻な悩みになってしまう。このままではわがままになるんじゃないかとか、なんとか直さなくてはとか。」

K「0123 吉祥寺では「そこに行けばいつも誰かがいるし、気軽に相談できるスタッフもいるので、問題が大きくならずに解決してしまう。深刻な相談はかえって少ない」という話があったね。親が集まる場所を作れば専門の相談員も少なくてすむかも。(笑)」

R「いつでもそこにいけば友だちと出会える、そんな場所が地域のあちこちに必要ね。」

(3) 地域の人が子育てに関わりにくいまち

T「意外だったのは、もっと地域の人と関わりたい」という意見があったこと。」

K「おばあちゃんやおじいちゃんが近くにいないから、子どもをいろんな人に出会わせたいという親の願いがあるみたいね。」

R「私も子どもに、いろんな人が関わってもらいたいと思うわ。」

K「私たちが子どものときは、家の前におばあちゃんたちが座っていたり、近所のおばあちゃんの家に入りこんで遊んだりしなかった？」

R「以前は公民館で「異世代交流」を企画しなくても、自然に近所の子どもと関わるような場があったのよね。そんな場を意識的に作ることによって地域の人でも子育てに関わることができると思う。」

K「そう、人と人が出会うしかけをまちにつくる。」

T「ベンチをL字型に置くとか、公民館の横に公園をつくるとか。」

K「公共施設のなかにもちょっと座り込んで授乳したりオムツを替えたり、乳幼児連れが自由に遊べる場をつくるとか・・・アンケートの答えにはそんなアイデアがいっぱい書いてあったね。」

3. 子育てしやすいまちとは

- T「アンケートの要望を整理していると共通した課題が見えてくる。子育てがしやすい町の条件として、子どもが自発的に活動したり自由な遊びを展開できる場、親も子どもも友だちと出会える場、地域の人と子どもが出会える場が、地域のあちこちにあることに整理できるのでは？」
- R「今回スライド上映した「0123 吉祥寺」と「羽根木プレーパーク」「コミュニティ道路」はこの3つを兼ね備えた場所ね。」
- K「やはり公園と、児童館や子育てコミュニティ施設は都市の子育ての必需品（笑）。」
- T「0123 吉祥寺では、利用者の86.3%が「子育ては楽しい」と答えている。大勢のお母さんや子どもが使えるように、公民館、幼稚園・保育園の園庭・教室、学校の空き教室、公共施設も積極的に地域に住む子どもとその親に開放してもらえるといいね。」
- R「でもただ建物があればいいということではなくて、ソフトも重要ね。」
- K「0123 吉祥寺や羽根木プレーパークは、初めにこんな場所が必要だと思う人たちがいて、そして建物や公園ができた。そこに来る人たちへの思いが先にあってハードが後でできたのよね。だから多くの人が喜んで利用していると思う。」
- T「まちづくりを、私たち自身の問題として考えていくことが必要ね。」
- R「まちのあちこちにほっとできる場所、居心地のいい場所、安心できる場所、知らない人同士が自然に話がはずむ場所、そんな場所をたくさんつくりたいわね。」
- K「そんな町は、きっと誰もが住みよいまちね。」

子育てしやすいまちとは・・・

- 子どもが自発的に活動し、自由な遊びを展開できるまち
- 親も子どもも、友だちと出会えるまち
- 地域の人が、子育てに自然に関わることができるまち

平成11年11月12日発行
地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会
「子育てしやすい町ってどんなまち？」より

*ひだまりの会では、「子育てしやすいまち」をテーマに、保護者へのアンケート、講演会（冒険遊び場、0123 吉祥寺の紹介、木下勇氏のオランダのまちづくりに関する講演等、ワークショップの結果についてまとめた冊子です。対談は、それらを受けての内容です。